

「職に就かない、学校にも行かない」若者が増加し、問題視されている。その若者たちは、[NEET]（ニート）と呼ばれ、全国で68万人、数年後には100万人を突破するというデータもある程だ。「自分で何をしたら良いか分からない」「自分は何がしたいか分からない」そんな子どもたちが多い現代社会。これはある意味異常だけど、決して他人事ではない。最近そう思っている。もしかしたら、私も生まれ育った東京に今もいたら、この[NEET]になっていたかも知れない…。

今号は、タイトルの「カッコイイ仕事」という趣旨からはちょっと脱線するけど、私の思いを書かせてください。

「子どもは親の背中を見て育つ！」という言葉があるけど、まさにその通りだなあ～と最近よく思っています。私も同じく親の背中を見て育って来た訳だけど、学生時代は、常に、親や周りの人たちを見て、こういう大人には成りたくない！と正直思っていました。高校時代の話、通学には電車を使っていたけど、毎日がラッシュで、すし詰め状態。乗って来る大人たちは、皆疲れ顔で、うつむき加減。イスに座っている人の大半は、下を向いて眠っている。そこに将来の自分を重ねて見てしまった私はまさに[NEET]の一步手前だったかもしれない。ただ私はこの状態に我慢ができず、東京を脱出して来た訳だけど、きっとそのまま、あそこにいたら、将来への希望は今だに持てていなかったような気がする。浦幌に住まわせてもらって、ほんとに良かった！あらためて、そう思う。



「子どもは親の背中を見て育つ！」という言葉を考えてとき、いつも思うことがある。それは、お世話になっている厚内で感じた思い。私が厚内で拾ってもらい、それから数年間、思っていた一番のことは、「ここで生まれてみたかった！」ということ。そう思った一番の理由は、同世代の若者たちが親の背中を見て育ち、親の存在とその仕事に誇りを持っているのが、いつも伝わっていたからだ。

もちろん中には、漁師はイヤで仕事を継がない人もいる。でも継ぐ継がないは別の話で、親を尊敬している人たちは、ほんとに多い。もちろん親たち自身も、この漁師という仕事に誇りを持っているし、そして、同じく自分の親たちを尊敬していたんだろうなあ～。

親が子供に与える影響はほんとに大きい。最近つくづくそう思う。子どもの未来を考えるなら、まずは、親たち、大人たち自身が自分を見つめ直すべきなのかも知れない。

今の浦幌、人口はどんどん少なくなっていくし、この町が置かれている状況は決して良くはない。それは、大人たち皆が感じていること。そしてそのことは、確実に子どもたちにも伝わっているはずだ。「このままじゃダメだ！」と思っていながら、何もしないでいたら、子どもたちはそのことをどう捉えるだろうか…。

時代や環境のせいにして、また個人の無力さのせいにして、何もしなかったら…。それでいて、子どもには、「こうしろ！」「ああしろ！」と指図していたら…。きっと子どもたちに悪影響を与える結果になるのではないだろうか。これでは「何をしたら良いか分からない」と子どもたちが感じてしまっても、仕方が無い。

結果はどうであれ、その過程において最善を尽くすこと、自分の思いを行動に移すことが大切なことで、その姿勢を子どもたちに見せることがきっと大事なのではないだろうか。そんなことの繰り返しで、世の中を良くしていく、きっかけなのかもしれない。

人それぞれできること、やるべきことは違うと思います。3人の子を持つ親として、私は「私が考える浦幌でできること」を実践していきたい！と思っています。

## カッコイイ 人・顔・仕事！

写真・文／おうみ近江 まさたが正隆

水道料の基本料金、再考をしてみても

水道料金が高いのもさることながら、基本料金の設定に不満があります。私はいたい3立方以下しか使わないのですが、8立方まで料金は同じです。するとどんどん使った方が得、ということですね。節水する気にはなれません。節水すれば安くなる、というのはであれば節水に心がけるように



ないということに至っては何のための町行政かと言わざるを得ません。

なるし、コストの縮減につながるのではないですか？基本料金は設備の使用料という意味合いもあるのでもなく使用しなくてもある程度の負担は分かれますが、支払いができないので町内会館の水道を止めざるを得ないということ

町の行っている財政改革に疑問

現在、町が行っている行政には疑問があります。町職員が施設の補修、道路整備、草刈を行ったり、各施設を閉鎖したり、なぜか行政は町民の想いと違う方向に向かっていくのでしょうかと思えません。町民の仕事を奪ってまで財政改革を行うのであれば、浦幌町は町関係者しか残りませ

**Voice.**

皆さんの率直な「声」をお聞かせください。お寄せいただいたご意見やご提案は、担当する部署にお届けし、町政への反映を図っていきます。

役場まちづくり政策課  
広報広聴係

ん。もっと町民を思いやっただでの行政改革を行ってほしいと思います。

男女共同参画社会基本法の中で「性別にかかわらず」という表現がでてきます。この言葉から、男女共同参画社会は、男性、女性の性差を否定し、人間を中性化するものだ」という誤解が生じています。では、男女の性差には、体のつくりの他にはどんなものがあるのでしょうか。

身体差以外の男女の能力差については心理学で研究されています。性差といわれる一つの例に空間のとらえ方があります。例えば、物体を逆さにひっくり返したり、くるくると回転させたりするかどうかという形に見えるかということや頭の中でイメージするのは、女性は男性より苦手であるといわれています。

そのため道路地図などを見るときには、女性は頭の中で地図を回転させることが難しいために地図全体をひっくり返したり横にしたりにして見るそうです。

また、男性が道案内をするときは、駅前の交差点を北に曲がって50メートルほど進みます」というように距離や方向を使う傾向があり、女性は、本屋の角を左に曲がる

男女共同参画コラム

vol.2

とじきに花屋がみえてくるのでその向かいです」というように目印を用いる傾向があるそうです。これは、優秀ということではなく、空間認知の仕方に違いがあるために生じることですが、もちろん、あくまでも平均的な話ですので、全ての人に当てはまるものではありません。

この能力差の生じた理由として、かつて男性は獲物をとるため長距離を移動することが女性より多く、それによって空間に対する能力が養われたのだという人もいますが、動物にも同じような差が見られることから、経験だけから生じたものではないといわれています。

難しい話はこれくらいにして、もし男女のカップルでドライブするとき、一方は常に運転で、一方は常に道案内役ばかりになっていませんか。男性の優れた距離感と方向感、女性の優れた目標探知能力をうまく使い分け、運転役と道案内役を上手に交代することによって安全で楽に目的地にたどり着くことができるのではないのでしょうか。